

防コミの歩き方

BOSAI
KOBE
MIRAI

「防災で貧困を減らせるのですか？」 ミャンマーでBOKOMIを紹介

神戸市では阪神・淡路大震災の教訓から、自主防災組織である「防災福祉コミュニティ(BOKOMI)」が結成され、熱心な地域防災活動が展開されています。

BOKOMIの「自助」「共助」を世界各国でも生かしていただこうと、神戸市消防局では世界発信に取り組んでいます。

その中で、ミャンマーでコミュニティ防災を広めるJICA(国際協力機構)関西/DRLC(国際防災研修センター)から依頼を受け、3月に講演をおこないました。

●ミャンマーの首都で防災セミナー

平成20年に死者不明者14万1000人(外務省HP)を数えたサイクロン「ナルギス」をはじめ、地震や交通事故などさまざまな災害に悩まされるミャンマー。その首都ネピドーにミャンマーの政府職員や消防士、大学教授、これまでのJICA研修で神戸市消防局を訪れた方など約70人が集いました。

日本側からはBOKOMIの取り組みや防災教育について紹介しました。

次いでミャンマー政府側からは、平成22年にJICA研修「総合防災行政」コースで来神しBOKOMIを見聞した救援・住宅再建局の若手女性職員トゥエミャーモーさんから、BOKOMIも参考にした防災訓練センターを今年開設するとの報告もありました。

●講演後の討論会にて

「日本では津波警報で何%が逃げるのか？警報が空振りならば罰せられるのか？」との質

問がありました。「自分は大丈夫」と思い込む心理状態「正常化の偏見」を説明した上で、「警報が空振りかどうか考えるのではなく、とにかく逃げて」「高台に逃げて津波が来なければ、それでよしとしてください」と私が市民の方に普段お伝えしている方法を紹介しました。

また、広域応援時の物資供給についての質問もミャンマーの建設省と運輸省の職員から出ました。東北派遣の経験も踏まえ、活動隊と後方支援の人数の割合や、神戸市消防局が被災地近隣の都市である新潟市の協力で供給基地を設け、被災地の活動隊への物資搬入の復路ではゴミの搬出もおこなったことを紹介しました。

「防災で貧困を減らせるのですか？」との質問も出ました。経済的損失もさることながら、予防によって1人でも多くの命を救うことから始めてくれればと思います。

セミナー開始前から「BOKOMI」という単語をご存知の方も多くおられました。阪神・淡路大震災の教訓から生まれた市民の皆さまの熱心なBOKOMI活動が、海の向こうで生かされようとしています。



セミナー会場にて、
ミャンマー人消防職員と

(地域防災支援係 大津暢人)